|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | | **チェック項目** | **はい** | **どちらとも**  **いえない** | **いいえ** | **ご意見** |
| **環境・体制整備** |  | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか | 2人  33％ | 4人  67％ | 0人  0％ | もう少し広い方が使い勝手が良いように感じます。  →入口スペースにある下駄箱等により、人の動きが込み入っていました。スペースを広く確保するよう下駄箱やロッカーの移動をします。クールダウン用のスペースの確保のために事務室等も含めて部屋の配置を検討します。 |
|  | 職員の配置数は適切であるか | 5人  83％ | 1人  17％ | 0人  0％ |  |
|  | 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか | 3人  50％ | 3人  50％ | 0人  0％ |  |
| **業務改善** |  | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標と振り返り）に、広く職員が参画しているか | 5人  83％ | 1人  17％ | 0人  0％ |  |
|  | 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか | 4人  67％ | 2人  33％ | 0人  0％ |  |
|  | この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか | 6人  100％ | 0人  0％ | 0人  0％ |  |
|  | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか | 1人  17％ | 3人  50％ | 2人  33％ | 来年度は実施するよう努めます。 |
|  | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか | 6人  100％ | 0人  0％ | 0人  0％ |  |
| **適切な支援の提供** |  | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか | 4人  67％ | 2人  33％ | 0人  0％ | ・事業所のアセスメント用紙がないため、書式があると良いと思います。  →書式を作る方向で準備を進めます。 |
|  | 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか | 3人  50％ | 2人  33％ | 1人  17％ | ・定期的に再アセスメントをし、記録として残すと良いと思います。  →上記⑨と併せて書式を作る方向で準備を進めます。 |
|  | 活動プログラムの立案をチームで行っているか | 5人  83％ | 1人  17％ | 0人  0％ |  |
|  | 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか | 6人  100％ | 0人  0％ | 0人  0％ |  |
|  | 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか | 4人67％ | 2人  33％ | 0人  0％ |  |
|  | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか | 4人  66％ | 2人  33％ | 0人  0％ |  |
|  | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか | 6人  100％ | 0人  0％ | 0人  0％ |  |
|  | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか | 4人  67％ | 2人  33％ | 0人  0％ |  |
|  | 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか | 4人67％ | 2人  33％ | 0人  0％ |  |
|  | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか | 6人  100％ | 0人  0％ | 0人  0％ |  |
|  | ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っているか | 4人  66％ | 1人  17％ | 1人  17％ | ガイドラインの総則の基本活動を組み合わせて来年度の活動を決めます。 |
| **関係機関や保護者との連携** |  | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか | 6人  100％ | 0人  0％ | 0人  0％ |  |
| ㉑ | 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時間の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか | 6人  100％ | 0人  0％ | 0人  0％ |  |
| ㉒ | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか | 1人  17％ | 4人  66％ | 1人  17％ | ・小学生高学年以上からの利用が多い為、情報共有は学校とになっているように感じます。 |
| ㉓ | 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか | 6人  100％ | 0人0％ | 0人  0％ |  |
| ㉔ | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか | 4人  66％ | 1人  17％ | 1人  17％ | 評価表集計後、研修に参加しました。 |
| ㉕ | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか | 1人  17％ | 2人  50％ | 3人  33％ | ・コロナのため実施が厳しいです。  →職員の交友関係を駆使して地域とかかわる機会を設けます。 |
| ㉖ | （地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか | 0人  0％ | 6人  100％ | 0人  0％ | ・詳しくは知らないです。 |
| ㉗ | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか | 6人  100％ | 0人  0％ | 0人  0％ |  |
| ㉘ | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか | 1人  17％ | 4人  66％ | 1人  17％ | ・コロナにより父母会等の機会が減っています。 |
| **保護者への説明責任等** | ㉙ | 運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか | 5人  83％ | 1人  17％ | 0人  0％ |  |
| ㉚ | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか | 6人  100％ | 0人0％ | 0人  0％ |  |
| ㉛ | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか | 2人  33％ | 3人  50％ | 1人  17％ | 茶話会や親カフェをコロナ前の頻度に戻して開催します。 |
| ㉜ | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか | 5人  83％ | 1人  17％ | 0人  0％ |  |
| ㉝ | 定期的に通信等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制などの情報を子どもや保護者に対して発信しているか | 6人  100％ | 0人  0％ | 0人  0％ |  |
| ㉞ | 個人情報に十分注意しているか | 5人  83％ | 1人  17％ | 0人  0％ |  |
| ㉟ | 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか | 6人  100％ | 0人  0％ | 0人  0％ |  |
| ㊱ | 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか | 3人  50％ | 2人  33％ | 1人  17％ | 毎年開催している文化祭へ地域の方を招待します。 |
| **非常時等の対応** | ㊲ | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか | 4人  67％ | 2人  33％ | 0人  0％ |  |
| ㊳ | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか | 6人  100％ | 0人  0％ | 0人  0％ |  |
| ㊴ | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか | 5人  83％ | 1人  17％ | 0人  0％ |  |
| ㊵ | どのような場合にやむを得ず身体的拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか | 1人  17％ | 5人  83％ | 0人  0％ | ・身体的拘束の必要なご利用者がいないです。 |
| ㊶ | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示所に基づく対応がされているか | 3人  50％ | 3人  50％ | 0人  0％ |  |
| ㊷ | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか | 3人  50％ | 2人  33％ | 1人  17％ | ・ヒヤリハットが活用されていないため共有する仕組みができると良いです。  →ハインリッヒの法則に基づき、ヒヤリハットの事例を今後は全事業所で確認できるツールを使用して、職員全体で共有できるよう検討します。 |